

事 項	今年度のスキーム	改 善 案
I 評価対象	○施策レベル（見える化改革の事業ユニットにおける施策）	○各局における重要な課題を有する政策分野などから、評価する施策を各局が毎年度選定（ <u>1～3施策程度</u> ） ※選定の過程で都政改革本部 推進部会等において議論
評価実施 施策・局	○（見える化改革の）事業ユニット所管局（計21局） ○各局が選定した1ユニットにおける全施策（一部でも可）	○施策の規模は、おおむね「部相当を単位とした一定程度の事業のまとめり」のレベルを想定（細分化する場合は事務局と要調整） ○施策の選定は、成果指標・目標の設定と一体的に実施  <施策の選定基準> <u>中長期的な展望に立って</u> 、より成果を志向してマネジメントする必要がある施策の中から、以下の基準で選定 ①行政計画等における位置付け、行政計画等の改定時期、法令の制定改廃の動向、社会経済状況の変化など、施策を取り巻く状況を踏まえて時宜にかなった施策 ②上記のほか、各局が必要と認める施策  [考え方] ・具体的な分析・施策改善の検討につなげるため、評価対象を重点化する。 ・都民への分かりやすさの観点から、評価する施策は、一定の規模感を確保し、設定する。 <u>・施策へのフィードバックを担保するため、中長期的な展望に立って施策を選定する。</u>

# 政策評価制度の改善案（2 / 4）

事 項	今年度のスキーム	改 善 案
II 評価手法	<p>○当年度、施策ごとに、成果指標・目標を設定。原則として定量的なアウトカム指標（設定が困難な場合は、定量的なアウトプット指標も可能）</p>	<p>【指標・目標の設定】</p> <p>○施策を実施することでどのような状態にすることを旨とするのかを「施策目標」として明確化した上で、施策の分野に関する「現状」と「課題」を明示</p> <p>○「施策目標」の実現に向けて達成すべき水準を定量的に測定できる「成果指標」としてアウトカム指標を設定。「成果指標」を設定できない場合等に、施策の成果の一部を測定できるアウトカム指標やアウトプット指標を「補足指標」として設定することができる。</p> <p>＜「補足指標」の設定例＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①時系列的に遠い目標を掲げる「成果指標」を設定する場合は、現在の取組状況を測ることができる指標を併せて設定</li> <li>②外部要因※などの不確定要素が与える影響が大きい目標を掲げる「成果指標」を設定する場合は、行政の取組状況を測ることができる指標を併せて設定</li> </ol> <p style="text-align: center;"><u>※社会・経済状況や国の施策動向、国際事情など</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>③「施策目標」の実現に向けた優先度を明確化できるよう、施策における重点分野に特化した指標を設定</li> </ol> <p>〔考え方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①<u>施策に関連した現状・課題（施策を必要とした経緯、社会・経済状況と都として取り組む必要性など）</u></li> <li>②「施策目標」の実現に向けて達成すべき水準を定量的に測定する「成果指標」としてのアウトカム指標</li> <li>③施策を構成する各事業の実施による効果の、アウトカム指標へのつながりを整理し、<u>施策の構成を論理的に分かりやすく示す。</u></li> </ul>

# 政策評価制度の改善案（3 / 4）

事 項	今年度のスキーム	改 善 案
<b>II 評価手法 (つづき)</b>	<p>○翌年度、評価実施（①成果指標の実績を基に施策の進捗状況の把握（各成果指標・施策全体で評語を設定）、②施策の分析、③今後の方向性の提示）</p> <p>※自己評価に関する制度の改善は、「今年度の取組」から実施</p>	<p>【自己評価】</p> <p>○分析：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の点検・分析を実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>①「成果指標」と「補足指標」の達成状況を点検（「達成／未達成、数値目標における達成度合い（%）」を表示）し、指標の目標と実績の乖離等が生じた要因を分析</li> </ul> </li> </ul> <p><u>＜要因分析の視点例＞</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>事業の実施状況（対象・規模・手段・スケジュールなど）はどうだったか</u></li> <li>・ <u>外部要因（社会・経済状況や国の施策動向、国際事情など）の影響はどの程度あったか</u></li> </ul> <p>② <u>社会・経済状況や都民ニーズに合っているか、必要性・妥当性等を点検</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>①,②を踏まえて、施策全体の進捗状況と施策の必要性・妥当性等を考慮した「施策に対する見解」を判断根拠とともに明示。あわせて、施策を推進する上での課題を抽出</u></li> </ul> <p>○今後の方向性の提示：</p> <p>課題への対応を検討し、「施策目標」の実現に向けてどのように施策展開（<u>事業の見直しや廃止、新規事業の検討など</u>）をしていくかを提示</p> <p><u>※提示した方向性の施策への反映状況は公表</u></p> <p>〔考え方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>施策の構成</u>を踏まえた分析や、<u>社会・経済状況等を踏まえた</u>今後の方向性の提示を重視した評価内容とする（施策全体の評語設定は行わない。）。</li> </ul>

# 政策評価制度の改善案（４／４）

事 項	今年度のスキーム	改 善 案
Ⅲ 評価主体・外部有識者の関与等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各局の自己評価</li> <li>○外部有識者（政策評価分科会）は①成果指標・目標（当年度）、②自己評価（翌年度）の妥当性に関して意見・助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各局の自己評価</li> <li>○外部有識者の意見・助言の視点を明確化  <u>成果指標・目標及び自己評価に関して、主に、政策評価の手順に従って評価・記載されているかという視点から意見・助言（プロセス・チェック）</u></li> <li>&lt;プロセス・チェックの視点例&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・指標・目標設定時： <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 「施策目標」に対応した指標・目標があるか</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 現状・課題が分かりやすく示されているか など</li> </ul> </li> <li>・自己評価時： <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 施策に対する見解や課題の抽出等における判断根拠は分かりやすく示されているか</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 施策の必要性・妥当性を社会・経済状況の変化を踏まえて確認しているか</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 評価書は分かりやすく簡潔か など</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
Ⅳ 評価書・情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①政策体系シート、②政策評価シート（施策ごとに成果指標・目標、構成する事業、自己評価等を記載）</li> <li>○評価書は全て公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価内容に関する一定の情報量を確保した評価書のほか、評価書の要約版（「現状」、「課題」、「指標・目標」、「自己評価」のポイントを記載した資料）を作成</li> <li>○施策を構成する事業として、「指標・目標」の達成に向けて寄与度が高い主要な事業（事業費のない事務・業務を含む）を記載</li> </ul>